

科目名	ライフ・スタディーズ Life Studies		担当教員 (研究室番号)	安部 彰 (505)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	4年次前期	科目区分	教養・基礎科目		選択区分	選択	単位数(時間)	2(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	Life (生命・生活)をめぐる諸問題について主に哲学または倫理学の観点から探求するために、受講生が関心のある文献を輪読し、その内容について対話・吟味を重ねる。それをつうじてLifeにかんする理解と考察を深めるとともに異なる信念・意見をもつ他者と共同で問題を探求する力を養う。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度)										
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献を正確かつ批判的に読むことができる。 2. 自他の信念・意見を吟味することができる。 3. 他者の話を傾聴し、かつ相手に合わせた伝え方で自分の考えを説明することができる。 4. 問題を発見し、それを他者と共同で探求する姿勢が身についている。 											
成績評価方法(基準)	平常点(事前課題・事後課題・個人またはグループ発表・哲学対話への貢献)(100%)											
再試験の有無と基準等	実施しない。											
教科書	課題文献は受講生と相談のうえ決定する。											
参考書等	授業時に適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	この授業では、Lifeについての理解を深めてもらうのみならず、さらに「輪読」と「対話」という共同探求の方法の意義を体感してもらう。すなわち我々は、まず輪読をつうじて同一のテキストに向きあっているにもかかわらず個々の視点や理解が想像以上に多様であることに気づくだろうし、またピア・エデュケーション(受講生間での主体的・相互的な学び)型の対話をつうじて不明点や論点の探求が個人レベルでの探求とは比肩しえないほどダイナミックに深化していく様を経験するだろう。											
備考	履修にあたり哲学的素養は不要であるが、授業への参加意欲は必須である。											

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
1回	イントロダクション	授業の目的・方法・意義などについて説明する。	安部	演習
2回	哲学とはなにか	哲学の目的について考察する。	安部	演習
3回	哲学と対話	哲学の方法について考察する。	安部	演習
4回	生命をめぐる問題①	生命をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
5回	生命をめぐる問題②	生命をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
6回	生命をめぐる問題③	生命をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
7回	生命をめぐる問題④	生命をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
8回	生命をめぐる問題⑤	生命をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
9回	生活をめぐる問題①	生活をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
10回	生活をめぐる問題②	生活をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
11回	生活をめぐる問題③	生活をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
12回	生活をめぐる問題④	生活をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
13回	生活をめぐる問題⑤	生活をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
14回	生活をめぐる問題⑥	生活をめぐる問いについて、課題文献を輪読し、哲学対話をつうじて検討する。	安部	演習
15回	まとめ	授業の要点のふりかえり。	安部	演習

学 習 課 題	
・ 2～14回目課題：(事前) 課題文献の予習 (事後) 授業内容についてのコメントの提出	
実務経験を活かした教育の取組	